

「大すきなお母さん」

武市 真拓

「もうしゃべらん。」

お母さんがおこつて言いました。わたしとお兄ちゃんがしつこくけんかをしたときです。わたしはお母さんにしらんぶりされるのが一ばんつらいです。それはお母さんが大すきだからです。

「ああお兄ちゃんどけんかするんじゃないか。」

と、はんせいします。

でも、すぐにわすれてまたけんかしてしまいます。わたしはお母さんみたいにやさしく人をまもれる人になりたいです。でも、お母さんもきょうだいの中で一ばん大きいおねえちゃんだったからけんかはあつたと思います。

「まひろ、『にげるがかち』よ。やつたらやりかえすのでは、けんかはおわらいよ。」
と教えてくれました。

お父さんとお母さんがけんかしたことがあります。そのとき、

「ちよつと、おさんぽいこうか。」

と夜のおさんぽに出かけることにしました。わたしは、お母さんとおさんぽに出かけるのがわくわくしました。二人で歩いてスパーへ行きました。まん丸いお月さまとあいました。ずっと二人についてきました。

「なんで、お月さんはついてくるの。」

わたしが聞くとき、

「まひろが、さみしくないようにみてくれてるね。」
とやさしく言ってくれました。

スパーにつくとアイスを一つずつ買いました。

「お月さまの真下でアイスをたべたらおいしいね。」
とおはなしをしながらたべました。

かえりに

「とってもおいしいね。またいきたいね。」
と話しました。

かえるとお父さんは、いつもどおりでした。けんかのりゆうもみんなわすれています。

「じかんがたつと、なかなかおり『にげるがかち』よ。」
と、わらつて言いました。

わたしは、お母さんはなんでもしつていてすごいと思いました。
「わたしも、お母さんみたいな『心がつよくて、やさしいお母さん』になりたいなあ。」
と思います。

アレルギーのわたしのために、いろいろなメニューを考え
てくれるお母さん、大すき。

ほそつちよのわたしにもあう、かわいいようふくを作つ
てくれるお母さんも大すき。

おしごととおうちのことをりようぼうがんばるお母さん。
ぜんぶまとめてじまんです。

「お母さん、さみしいときはむねに手をあててね。いつも心に
いるからね。ありがとう。」とかんしゃの手紙を書きました。

「たからものするね。大せつにするね。」
ととてもよろこんでくれました。

わたしの心の中もほんわかしました。